

第12回 雪明・新潟眼科フォーラム

(日本眼科学会専門医制度生涯教育認定事業No.25182)

Yukiakari・Niigata Ophthalmology Forum

日時: 令和7年3月2日(日) 9:00~12:35
場所: 『朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター』2階 スノーホール
〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号 TEL:025-246-8400
専門医単位: 1単位
会費: 現地: 医師 3,000円 レジデント・視能訓練士: 1,000円

プログラム

Program

9:00~ 開会の挨拶 新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 教授 福地 健郎先生

【第一部】 座長: 新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 准教授 赤木 忠道先生

9:05~9:55 <<1>ぶどう膜>>
『ぶどう膜炎診療のTips』
九州大学医学研究院眼科学分野 教授 園田 康平先生

9:55~10:45 <<2>網膜>>
『網膜中心静脈閉塞症の病態理解と最新治療方針』
京都大学大学院医学研究科 眼科学 教授 辻川 明孝先生

10:45~10:55 (休憩)

【第二部】 座長: 新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 教授 福地 健郎先生

10:55~11:45 <<3>緑内障>>
『緑内障濾過手術の現状と課題』
東京大学医学部 眼科学教室 教授 相原 一先生

11:45~12:35 <<4>白内障>>
『その白内障の診断、正しいですか?』
筑波大学医学医療系 眼科 教授 大鹿 哲郎先生

12:35~ 閉会の挨拶
新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 准教授 赤木 忠道先生

【共催】雪明・新潟眼科フォーラム / 参天製薬株式会社 【後援】新潟県眼科医会 / 新潟市眼科医会

第12回 Yukiakari・Niigata Ophthalmology Forum

雪明・新潟眼科 フォーラム

日本眼科学会専門医制度生涯教育認定事業 No.25182



開催日時

令和7年 3月2日(日) 9:00~12:35

開催場所

「朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター」2階 スノーホール

〒950-0078 新潟市中央区万代島6番1号 TEL:025-246-8400

事務局

新潟大学大学院医歯学総合研究科 眼科学分野 事務局内

雪明・新潟眼科フォーラム事務局 TEL:025-227-2296 FAX:025-227-0785

〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757

【共催】雪明・新潟眼科フォーラム / 参天製薬株式会社 【後援】新潟県眼科医会 / 新潟市眼科医会

第12回 雪明・新潟眼科フォーラム



ごあいさつ

新潟大学大学院医歯学総合研究科眼科学分野 教授

福地 健郎



謹啓

私が新潟大学眼科教授を引き継がせていただいたのが2012年11月。雪明新潟眼科フォーラムは、それ以前から自身で暖めていた企画を参天製薬様に協力していただく形で始められました。1日で複数の分野の先生方のお話を拝聴できる新潟ではもっとも大きな講演会として定着し、県内の眼科医療に大いに貢献してきたと思います。第12回を数えることになりましたが、私が代表を務めては今回が最終回ということになります。ひとつの節目、記念の意味を込めて、現在、日本の眼科の中心で、まさに眼科を支えている4名の先生方にお集まりいただくことになりました。いずれも超がつくご多忙にも関わらず、オファーを快くお引き受けいただき、心より感謝申し上げます。一回の地方での講演会で、この4名の先生方が一堂に会し、また全員のご講演を拝聴できるという機会は、おそらくなかなかないと思います。まさにレアな眼科体験を、ぜひ皆様にも現場で楽しんでいただきたいと思います。

ご出席を心よりお待ちしております。

謹白

ぶどう膜炎診療のTips

九州大学医学研究院眼科学分野 教授 園田 康平 先生

略歴	1991年	九州大学医学部 卒業	2010年4月	九州大学大学院医学研究院眼科学 准教授
	1993年	九州大学医学部大学院博士課程		
	1997年	米国ハーバード大学スケブンス眼研究所	2010年10月	山口大学医学研究科眼科学 教授
	2001年	九州大学大学院医学研究院眼科学 助手	2015年9月	九州大学大学院医学研究院眼科学 教授
	2007年	九州大学大学院医学研究院眼科学 講師		

ぶどう膜炎は決して珍しい病気ではありません。あらゆる病院やクリニックで診察する機会があり、外来で2～3日診察していれば、重症度は別にして必ず何人か診察する機会はあるでしょう。「私は専門外なのでよくわかりません」と逃げてばかりもいられません。

ぶどう膜炎は全身炎症疾患、感染症、悪性腫瘍など多種多様な原因によって起こります。最初にこの3つのどれに当たるのかを診断することは極めて大切で、場合によっては適切な眼内液検査を行う必要があります。初期に仮に原因病態の確定ができなくても、大きく治療方針を決める上で間違わないコツを心得ておく必要があります。

「ぶどう膜炎は苦手だ」という声をよく聴きます。「ぶどう膜炎は所見を見てもさっぱり診断がつかないし、治療といえばまあステロイドだけど、どう使っているのかわかりにくい」こんな感じです。眼科の魅力としては、「所見をみてそのまま診断がつき、手術でよく治る」ことが挙げられますが、そんな魅力に惹かれて眼科医になった若い先生にとって、ぶどう膜炎がとっつきにくく映るのはうなずけます。ぶどう膜炎は、ぱっと見て診断がつかないけれども、推理し、検査を組み立て、リーズナブルな治療を開始する、といった応用力が問われるわけです。系統立てて教えてくれる上級医が近くにいれば、なるほど!ということになり、今までベールに包まれていたぶどう膜炎が、面白い分野に早変わりします。

本講演では私の経験した具体的な症例を示しながら、ぶどう膜炎診療のTipsをお伝えしたいと思います。

緑内障濾過手術の現状と課題

東京大学医学部眼科学教室 教授 相原 一 先生

略歴	1989年	東京大学医学部医学科 卒業	2003年	東京大学医学部眼科学教室 医学部専任講師
	1990年	東京大学医学部眼科学教室文部教官 助手	2012年	東京大学医学部眼科学教室 准教授 四谷しらと眼科 副院長
	1998年	東京大学大学院生化学細胞情報部門 卒業 医学博士	2014年	東京医科歯科大学医学部眼科学教室 特任教授 兼任
	2000年	東京大学医学部眼科学教室文部教官 助手	2015年	東京大学医学部眼科学教室 教授 現在に至る
	2001年	カリフォルニア大学サンディエゴ校 緑内障センター 臨床指導医		

濾過手術は眼外に房水を流出させる手術の総称で、現在線維柱帯切除術が最も低い術後眼圧に下降させることが可能であるが、2022年から生体適合性に優れた医用材料によるプレートなしインプラントによる濾過手術が導入された。長期的な有効性と安全性の点で、従来の線維柱帯切除術より有効性はやや劣るものの安全性が高いため、手術による患者のQOL、QOVを損ねにくい日帰りも可能な低侵襲手術である。プレートなしインプラントと線維柱帯切除術の眼圧下降の有効性と安全性、術前後の管理、また手術不成功の危険因子、適応症例について、我々の最新の長期データを交えた現状と、今後の課題についてお話しさせて頂きたい。

網膜中心静脈閉塞症の病態理解と最新治療方針

京都大学大学院医学研究科眼科学 教授 辻川 明孝 先生

略歴	1993年	京都大学医学部 卒業	2009年	京都大学大学院医学研究科眼科学 講師
	1994年	倉敷中央病院眼科		
	1996年	京都大学大学院医学研究科眼科学	2014年	香川大学医学部眼科学講座 教授
	1999年	Children's Hospital Boston(留学)	2017年	京都大学大学院医学研究科眼科学 教授
	2001年	神戸市立中央市民病院眼科		

網膜中心静脈閉塞症(CRVO)には黄斑浮腫、新生血管緑内障の大きな2つの合併症があります。近年の光干渉断層計(OCT)の進歩に伴って網膜の断面像の観察が可能となり、黄斑浮腫の病態理解が大きく進歩しました。時期を同じくして、抗VEGF薬の登場により視力予後も格段に良くなりました。しかし、繰り返し投与を要するケースが多く、一筋縄ではうまく行かないことも多いでしょう。黄斑浮腫に対して抗VEGF薬のよる治療を行っていても、新生血管緑内障は生じ得ます。CRVOに伴う新生血管緑内障は発症から3ヶ月をピークに通常1年以内に発症することが知られていました。しかし、抗VEGF治療を行っていると、発症から時間を経て緑内障が発症することもあり、単に、発症を先送りしているだけにすぎないのかもしれない。そう考えると、現在でも虚血型CRVOに対する予防的汎網膜光凝固は必要です。また、オプトスの導入により、周辺部までの網膜出血、循環動態が観察可能となりました。これまであまり注目されてこなかった周辺部の大型斑状出血が広範な無灌流領域のサインと報告されています。一方、OCT Angiographyの導入により黄斑部の網膜毛細血管の層別解析が可能となりました。無灌流領域は視力だけでなく黄斑部の網膜感度の低下にも関連していることも明らかになってきました。検査法の進歩により病態理解は大いに深まりました。また、新しい治療法の導入により、治療レジメンも大きく変化しました。しかし、以前からのマネージメントが完全に過去の者になったわけでは決してありません。現在の最新の網膜中心静脈閉塞症の病態理解・治療レジメンについてお話しさせて頂きたいと思います。

その白内障の診断、正しいですか？

筑波大学医学医療系眼科 教授 大鹿 哲郎 先生

略歴	1985年	東京大学医学部 卒業	2002年	筑波大学 教授
	1985年	東京大学医学部眼科学教室	2017年	日本眼科学会 理事長
	1995年	東京大学医学部 講師	2023年	Asias Pacific Academy of Ophthalmology (APAO), President-Elect
	1997年	Louisiana State University, Visiting Assistant Professor		
	1998年	東京大学医学部 助教授		

白内障の診断、簡単だと思っていませんか？どうせ取り除いてしまう水晶体だから、診断なんて大事じゃないと考えていませんか？

甘い。アリが寄ってくるぐらい甘いと言わざるを得ません。

数の多い手術だからこそ、そして結果がすぐに自覚される手術だからこそ、その診断と適応判断はしっかり行う必要があります。適応でない白内障に手術を行ってはいけませんし、逆に、手術適応である白内障を見逃してはいけません。そのためには、白内障によって何故視機能障害が起きているのか、基本的な知識が重要となります。

講演では白内障診断の基本から、眼光学的な考え方、そして手術の入り口まで、研修医～中堅医師はもちろん、熟練者にも見逃してもらいたくないポイントを、まとめて解説しました。